阿Q MOGE通信 monthly
阿Q通信公司公認機関報
発行：㈱ブラッツアーティスト
東京都渋谷区広尾5－21－2
長谷部岩2大廣3棲 〒150
電話 03(449)9711
郵便振替 東京8-357538
加入者名：阿Q通信公司
編輯人 櫻村不二夫
太平3年 5月 15日発行
第2巻 第4号 通巻4号
毎月1回25日発行（予定）
第三種郵便物未認可

突然の決定 新しい地平への旅立ちか？

政府首脳も困惑、日米構造協議にも確実に影響の模様

【東京十二日＝櫻村特派員】株式会社ブラッツアーティストのスポークスマンは十二日に緊急の記者会見を開き、ロックバンド「阿Q」の五月十五日以降の活動休止を発表した。この突然の決定に対して、記者団からも「どうせウケねらいのゴシップではないか」との質疑が殺到したが、担当報道官は終始、真剣に活動休止のコメントを繰り返し、多くの報道機関が信憑性に欠けると報道を自粛するなかで、本紙編集部はあえて衝撃の報道に踏み切った次第である。

本紙編集部の執拗な取材で判明した事実は、①阿Qは様々な諸事象の関連のなかで活動休止を決定し、②五月十五日以降はしばらくコンサート及び番組出演・取材など全ての活動を休止し、③それにともない秘密結社「太平天国」を一旦休会し、④そのような情勢のなかで新展開を研鑽し改めて真実の姿勢を世に問う、というもの。

このような突然の、一方的な決定に対して、各界の多くの人々から驚きと叱咤、苦情が殺到することは確実だが、諸事情は依然、藪のなかである。

それでも、この急な決定がそれだけで許されるはずはなく、本紙編集部の取材で判明した多くの事実ならびに担当者のコメント、そして対応策は、本紙一面下段、二面に掲載した通りである。

この一連の動きにおいて、阿Qのメンバー自身のコメントが最も注目されるところであり、本紙編集部もその掲載を試みたが、そのコメント掲載は時期尚早との判断があり、また、コメントでは余りにも個人のプライバシーの暴露が否応なく必須となり、今回はその発表を差し控えた次第である。それでも「阿Q」という存在は公的なものであり、一方的な「休止」だけで許されるものではなく、本集部の出来る限りの事実公表に、御納得頂きたい。ブラッツでは阿Qフリークよりの電話や訪問を受け付けられませんのでよろしくお願いします。

（◇）フリークの知り合いがいましたら、それとなく状況を教えてあげてください。

今回の「MOGE」は、太平天国の約四百名の国民に郵送しかしていません。ライヴで配ったり、置きビラはしていません。印刷も余分にしていませんので、近くに、阿Q（◇）

阿Q活動休止

編集手帖

正直なところ、この急な事象は、すべてが三月に入った頃、怒濤のように押し寄せてきました。

もちろん、阿Qが仙台で結成されてから四年、そして上京してから二年、この年月の間には、もちろん良いことばかりではないわけで、誰でもそうなように、阿Qにとってもけして嬉しくないこともあります。

阿Qを知っている人なら（最近のコドモはギョーカイのことなどもやたら詳しいから）、この突然の活動休止の理由も、三つ四つくらい予想がつくかもしれません。それに関しては一切、説明できませんが、ただひとつ言えることは「この休止が消極的なものではない」ということだけです。

これが例えば「もうどうしようもないから……」などというレベルの低いものだったら、こうして発表することさえ差し控え、それでれと消えるのを待つでしょう。しかし、発展的な休止であるからこそ、あえて、その事実のみ公表することとなりました。

本当なら、この「MOGE」において、メンバー一人一人のコメントを掲載すべきですが、いま、メンバーが語るには、いま発表すべきではないこと、また余りにも個人的なことまで、どうしても発表せざるを得ません。ですから、どうか許してください。

また、急な展開で、おまけに次の何らかの展開を公表していないわけで、これが、あと一回はライヴがあるとか、半年の活動休止などと主張できれば、まだ救われる気もするのですが、今回はそれもできず、阿Qフリークにとっては「無期限の絶交」に近い悪夢かもしれません。それでも、こうしかできませんでした。ごめんなさい

（◇）出身の友達の卒業アルバムでTARACOの住所を調べようとしたアナタ！ 無駄な努力です。手紙は プ・ラ・ッ・ツ で、よろしくお願いします。

「阿Q活動休止?」春一番の突風が町を吹き抜ける

有識者は語る——私と阿Q、そして世界

音楽総合コーディネーター ダイアナ鈴木さん

私は昨晩、エールフランスで香港に着いたの。パリで開催の「ベルエポック〜ゴーギャンの絵画の中でたわむれるモンマルトルのウサギ」を総合プロデュースして、「フィガロ」や「ルモンド」など各紙の絶賛を得て、くたくたになった身体で、香港に着いたの。常宿のリージェントホテル、ヴィクトリアハーヴァーに面した、いつものメモリアル・スウィートルーム。アームチェアに腰をおろしてブロッカを飲みながら、香港サイドのビルのネオンを眺めていたわ。そう、その時、ボーイが一通のファクシミリ・ペーパーを運んできたの。

私は、どうせ「ローリングストーン」誌かなにかの、私への賞賛記事だと思ってペーパーに目をおとしたわ。

「そんな……」

私はバステルグリーンのベットのワインレッドのピロケースに沢山の涙をおとしたわ。

「た・ら・こ……」

私は白濁色のドブロッカ、そのカクテルグラスを思いっきり窓に投げつけた。

「まんじゅー……」

破るように黒のボディコンシャスなドレスを脱いだ。

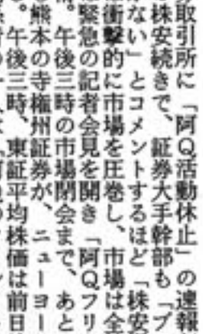
「ピー、ピー、ピースケ……」

胸のゴールドのロケットを開けると、ピースケが笑っていたの。

「だいてつ……」

もう、涙の雨が私の眼球を走って、オパール・カラーのコクトレンズもズレる。

横田のエアベースで、クラコと会ったのは、もう四年も前。



ダイアナ鈴木さん

しいことを云う。

私は出演した。

朝日新聞と岩波書店関係、そして音楽之友社、それ以外の方との御交際は一切、お断りしていた私が、だ。

早起きして、ロケ地である米軍の朝霞基地跡に行った。「阿Q」という、そのエレキの若者たちは「眠い」とか「腹、減ったよ〜」などとばかり言っていたかと思えば、弁当の時間になれば今度は、

クラシック音楽評論家 吉田和秀さん

私が阿Qに出会ったのは去年の二月。なんで世界的に高名なクラシック音楽評論家である私がロックなどという破廉恥な音楽の、それもプロモルシオン・ヴィディオなんぞに出演しなければならないのかしら。依頼を受け、即座にお断り申し上げた。しかし「知的で貴族的な雰囲気をかもし出す老紳士の役柄」は私しかできない、という至極当然な人選であることに間違いはなく、たった半日拘束で「トップバライのD十G万で、アゴアシ別」、しかも「タクシーのカラ領収書、十七枚のオマケつき」とプラッツ宣伝部の加地君が美味

吉田和秀さん

お茶にナスの漬物をいれて「これがホントのナスティ、ナンチャッテー！」などという、非常に低俗なギャグで一同爆笑している。だからクラシック以外は音楽芸術ではないと、私はかねがね主張してきたのだ。

寒い、雨は降る、芋粉はかぶるという最悪のコンディションのなかで、撮影は深夜に及び、それで「ギャラ、請求書で今月末〆の翌月末払い、C万のアゴアシ込みでヨロシクね、吉田チャン♡」などと勝手に決め、しかも憧れのタクシー・空領収書は「阿QのサンプルCD六枚でヨロシク」ときたもんだ。

だから、私はロックを認めていない。プロモルシオン・ヴィディオなど、もう出演拒否だ。（談）

阿Qのメンバーへのお手紙は、従来通り、ブラッツで受け取りし続けます。東京都江戸川区新小岩の駅周辺でダイエツの住処探検をしていたアナタ！ 学習院初等科（◇）

「阿Q活動休止?」春一番の突風が町を吹き抜ける

有識者は語る——私と阿Q、そして世界

音楽総合コーディネーター ダイアナ鈴木さん

私は昨晩、エールフランスで香港に着いたの。パリで開催の「ベルエポック〜ゴーギャンの絵画の中でたわむれるモンマルトルのウサギ」を総合プロデュースして、「フィガロ」や「ルモンド」など各紙の絶賛を得て、くたくたになった身体で、香港に着いたの。常宿のリージェントホテル、ヴィクトリアハーヴァーに面した、いつものメモリアル・スウィートルーム。アームチェアに腰をおろしてブロッカを飲みながら、香港サイドのビルのネオンを眺めていたわ。そう、その時、ボーイが一通のファクシミリ・ペーパーを運んできたの。

私は、どうせ「ローリングストーン」誌かなにかの、私への賞賛記事だと思ってペーパーに目をおとしたわ。

「そんな……」

私はバステルグリーンのベットのワインレッドのピロケースに沢山の涙をおとしたわ。

「た・ら・こ……」

私は白濁色のドブロッカ、そのカクテルグラスを思いっきり窓に投げつけた。

「まんじゅー……」

破るように黒のボディコンシャスなドレスを脱いだ。

「ピー、ピー、ピースケ……」

胸のゴールドのロケットを開けると、ピースケが笑っていたの。

「だいてつ……」

もう、涙の雨が私の眼球を走って、オパール・カラーのコクトレンズもズレる。

横田のエアベースで、クラコと会ったのは、もう四年も前。

ダイアナ鈴木さん

しいことを云う。

私は出演した。

朝日新聞と岩波書店関係、そして音楽之友社、それ以外の方との御交際は一切、お断りしていた私が、だ。

早起きして、ロケ地である米軍の朝霞基地跡に行った。「阿Q」という、そのエレキの若者たちは「眠い」とか「腹、減ったよ〜」などとばかり言っていたかと思えば、弁当の時間になれば今度は、

クラシック音楽評論家 吉田和秀さん

私が阿Qに出会ったのは去年の二月。なんで世界的に高名なクラシック音楽評論家である私がロックなどという破廉恥な音楽の、それもプロモルシオン・ヴィディオなんぞに出演しなければならないのかしら。依頼を受け、即座にお断り申し上げた。しかし「知的で貴族的な雰囲気をかもし出す老紳士の役柄」は私しかできない、という至極当然な人選であることに間違いはなく、たった半日拘束で「トップバライのD十G万で、アゴアシ別」、しかも「タクシーのカラ領収書、十七枚のオマケつき」とプラッツ宣伝部の加地君が美味

吉田和秀さん

お茶にナスの漬物をいれて「これがホントのナスティ、ナンチャッテー！」などという、非常に低俗なギャグで一同爆笑している。だからクラシック以外は音楽芸術ではないと、私はかねがね主張してきたのだ。

寒い、雨は降る、芋粉はかぶるという最悪のコンディションのなかで、撮影は深夜に及び、それで「ギャラ、請求書で今月末〆の翌月末払い、C万のアゴアシ込みでヨロシクね、吉田チャン♡」などと勝手に決め、しかも憧れのタクシー・空領収書は「阿QのサンプルCD六枚でヨロシク」ときたもんだ。

だから、私はロックを認めていない。プロモルシオン・ヴィディオなど、もう出演拒否だ。（談）

阿Qのメンバーへのお手紙は、従来通り、ブラッツで受け取りし続けます。東京都江戸川区新小岩の駅周辺でダイエツの住処探検をしていたアナタ！ 学習院初等科（◇）

"休業"ということで
まるで、某バンドのような事を
言ってしまいました。
突然の事なので、応援してくれた人には、悪いけど、
日は、また昇るということで
しばしの間 さようならです。

まんぢゅう

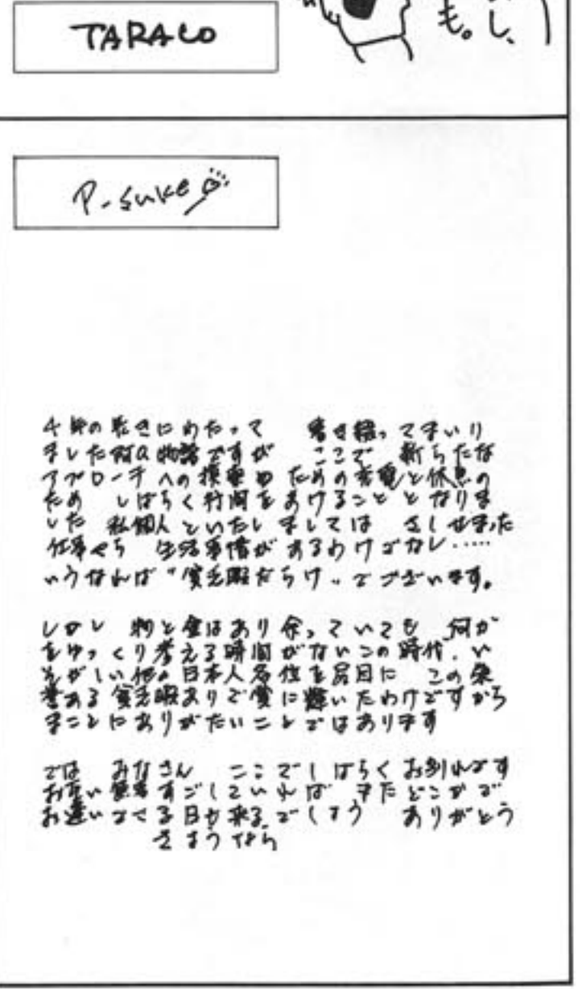
TARACO

3日後に又阿Q始めるかもしれないし、1週間後にアグリカルチャーしてるかも。きめられた道や、きめられた形の中は居心地がいいけど、いつもニガテでいつもぬけだしたいと思ってる。だから自分の為、自由になる。きっと又、会える日がくる。短い人生 いろいろやってみたいのさ。

ダイエツ

最%の応援団は
目に見えない
力強いエールは、
本当に苦しいとき
君に届くだろう。
〝がンバってくれ
たのむから
がンバってくれ〟
エールが聞こえる。
最%の応援団は
目に見えない

P-suke



鈴木秀雄さんより勲一等旭日大綬賞を剝奪

修理中の小栗さんと全く反省のない鈴木さん

昨年の十月、阿Qメンバーが乗車し名神高速道路を走行中のブラッツ号でタイヤがバーストした際、冷静な判断と機敏な運転操作により、無事、路肩に停車したチョッパーベーシストの鈴木秀雄隊員であったが、ことも あろうに三月十三日午後都内某所のタラコ宅を出ようとした矢先、ガードレールにブラッツ号の左後部を接触させ、テールランプ部分を破損させてしまった。

これによる出発の遅れで大阪から乗船予定の大分行きフェリーに乗り遅れるのではないかと懸念されたが、コンサート音響と自動車の応急修理で著名な株式会社モブの小栗明男隊員が乗車していたため、小栗隊員による手際よい修理が功を奏し黒ガムテープ一本で、接触破損があったことなどブラッツ号をリースしている㈱住商リースはまるで気がつかないであろうほどに完璧な修復がなされ、無事に乗船できた。

これによって、鈴木隊員は前回の功績に対して贈られた勲一等旭日大綬賞を剝奪され、その栄誉は今回の殊勲により小栗隊員に贈呈されることとなった。

阿Qスタッフあれこれ

新幹線でくつろぐダイテツさん

まず、結論から先に述べれば、阿Qに関する業務一切は、今後ブラッツ（レコード会社のほう）が継続することになる。

そのへんの事情を説明すれば、まず、ブラッツアーティストで太平天国の様々な事務処理から一連のソノシート・グッズなどの通販手続き、そればかりか、阿Qフリークにとって『ひとまわり』上の「大人の女性」として国民の悩みの相談にのっていた木村裕子さん（21）は、三月末現在でまだ太平天国国民特典の「阿Qグッズ」を受け取っていない国民には、入国税の二千円を小為替にて本紙郵送時に返還して、了承を得たい。

また、この突然の身勝手な決定に対して、太平天国国民もそれぞれ「冗談じゃない」という抗議、苦情など生じることは重々承知の上、大変申し訳ないが、状況が状況ゆえ、電話と訪問による行為は一切、受け付けることができないことを了承していただきたい。すべてハガキか封書による郵送をお願いしたい。

更新期間に更新し、四月末現在でまだ太平天国国民特典の「阿Qグッズ」を受け取っていない国民には、入国税の二千円を小為替にて本紙郵送時に返還して、了承を得たい。

また、この突然の身勝手な決定に対して、太平天国国民もそれぞれ「冗談じゃない」という抗議、苦情など生じることは重々承知の上、大変申し訳ないが、状況が状況ゆえ、電話と訪問による行為は一切、受け付けることができないことを了承していただきたい。すべてハガキか封書による郵送をお願いしたい。

そして、阿Qのタラコさんに言わせれば「勝手に阿Qのマネージャーになってしまった」、ピースケさんに言わせれば「それまで俺が阿Qの経理をしていた時は黒字だったのに、経理を任せたら急に赤字に転落した」ため、阿Q経費の使い込みを疑われていた樫村富士夫さん（21）も、今回の阿Q活動休止に伴い「普通の男の子に戻りたい」などと暴言を吐き（実際は、仙台時代の経費使い込みがバレそうになったため、という噂が絶えない）、四月十五日以降、あの阿Qフリークに対する横柄な電話の応対も、ライヴ会場に並んでいる阿Qフリークに「ねぇこのへんに文房具屋さんあるかなぁ」、ガムテープを買って来てくれるぅ、悪いなぁ」という客を客と思わない態度も、もう、あり得ないこととなった。

突然の決定で申し訳ない。

（♡）流します。これを六月下旬まで流し、その日で「もしもしダイヤル」も休止します。七月以降は業務用回線となりますので、注意してください。

阿Qモシモシダイヤル ☎03(449)9717 です

新幹線でもファンキーなタラコ様

株式会社ブラッツアーティスト制作部長 太田サンより皆サン江

阿Qが地元仙台で結成されて四年の間、「太平天国」へ加入されてきた皆さんに、まずはこの紙面を借りまして、心より感謝致します。

さて、今回突然の「阿Q活動休止」決定の、ご報告が遅れた事で、電話等の問い合せに対して八ッキリとしたご返答ができなかった事も、合わせてお詫び申し上げます。

つきましては会報紙「太平天国」も今回をもって休刊となり、それに伴なって本年度更新期間に更新し、四月現在で特典の「阿Qグッズ」を受け取っていない会員の皆様には六月中に会費二千円の返還を小為替にて致します。誠に勝手ではございますが、この返還をもってご了承頂きたくお願い申し上げます。

編集後記

一九八六年の十月、忘れもしない阿Q初のリサイタル「MASAMUNE第一幕」（うーん、スゴいタイトルだった）において「大公報」が創刊され、月刊といいつつ実際は平均四〇日に一号の割で発行を続けてきたことになる。

どーも、あの、ファンクラブの会報とゆーやつが気持ち悪くて、つい、ついこの路線に走ってしまったが、今回の状況で結局休刊だ。

今までの紙面のなかで、なぜかチョッパーベーシストとして著名な鈴木秀雄さんばかりをオチョクる「事件」もの（ゴメンね、マンデューサさん、ほんとは愛してるよ〜）などが、印象深い。それにしても、ピースケさんが結婚してるとかBMWに乗ってるとか、いま思えば、よくもシャーシャーとウソをついてきたものだ。特にくだらないのは、仙台時代、太平天国の国民を増やすため「この大公報は太平天国国民にのみ配布する」とウソをつき、おまけに「コピーしようとしても複写機では写らない特殊印刷液を使用しているなどとノタマッテいる。みーんなウソだ。

今にして思えば、「大公報」そして「MOGE」は、阿Qの、その「マイナーなギャグ」を基礎に「マイナーな言葉遊び」と「マイナーな不条理」を決め込み、オヤジのような死語をクドクド長文していたから、このノリが嫌いな人にとっては本当に不服。だから、「ロックバンドの宣伝」の筈なのにぜんぜんその役割を果たしていなかったようだ。

そんな「大公報」そして「MOGE」だったのに、本号は余りにもウソで笑っていられず、本当のことを発表しなければならなかった。皮肉なことだ。